

13. 生産力強化に向けた取組（スマート農業の展開）

- スマート農業技術を生産現場に導入・実証する**スマート農業実証プロジェクト**において、茶については、静岡県、京都府、長崎県及び鹿児島県の**5地区6課題の実証を実施**。
- **スマート農業技術活用促進法**（令和6年10月施行）に基づき、農業の生産性の向上を図るための「生産方式革新実施計画」及び「開発供給実施計画」の2つの**認定制度を創設**。

スマート農業実証プロジェクト優良事例

鹿児島堀口製茶(有)

〈実証面積〉

116ha（鹿児島県志布志市）

〈課題〉

高齢化と労働力不足が深刻なため、茶業全体のスマート化が必要。

〈実証内容〉

ロボット茶園管理機の導入等により作業時間を40%以上削減、品質と収量の最適化を図る茶生産情報の一元化と経営の見える化を達成。さらにローカル5G技術を活用して、ロボット農機の遠隔監視自動運転により摘採等の作業時間を56%削減、ドローンによる空撮データの伝送・解析時間を4G比で約半分に短縮等の効率化を達成。



ロボット茶園管理機



情報の一元化と見える化

「スマート農業実証プロジェクト」パンフレットにより作成

開発供給実施計画認定

有機栽培茶向けの栽培管理システムと連携した 蒸気による防除・除草作業機

〈申請者（代表者）〉

カワサキ機工株式会社

〈計画の実施期間〉

5年間

〈取組概要〉

有機栽培茶向けの栽培管理システムと連携した蒸気による防除・除草作業を可能とする乗用複合管理機の開発及び供給



〈本技術による生産性向上の効果〉

「果樹・茶作」の「除草及び防除」のうち、「急傾斜地等の不整形な園内における自律走行除草機等の除草作業の省力化に資する技術」により労働時間80%削減に資する技術

14. 自然災害等のリスクへの備え

- 茶生産においては、凍霜害、寒害、降灰等の自然災害のほか、販売価格の下落等のリスクが存在。
- こうしたリスクに備えるため、**農業保険（収入保険、茶共済）の普及促進**の取組を実施。

【収入保険（茶）の加入状況】（経営体）

R2	R3	R4	R5	R6
642	1,483	1,742	1,845	1,847

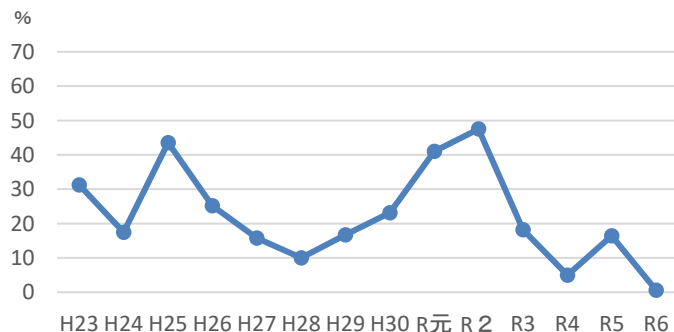
資料：農林水産省経営局保険課調べ

【農業保険（茶）の加入率の推移】（%）

	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
加入率	2.7	6.0	15.7	38.0	42.8	47.5	48.5

資料：農林水産省経営局調べ（加入率：加入面積/栽培面積）
※H30年産までは、茶共済の加入率である。

【茶共済における戸数被害率の推移※】



資料：農林水産省経営局保険監理官調べ（戸数被害率：共済金支払戸数/加入戸数）
※茶共済の実施県は、埼玉県、神奈川県、静岡県、京都府、愛媛県、高知県及び宮崎県の7府県（R6実績）

【収入保険加入者の声】

「収入保険を活用し、経営を継続」

【静岡県静岡市 清照由苑 代表 鈴木 照美さん】



両河内茶を守ろうとがんばっていた主人の思いを引き継ぎ、茶農家を継ぎました。

収入保険には2022年から加入しましたが、記録的な大雨をもたらした2022年9月の台風15号で、茶畑の一部が崩れたり、わさび田が埋まったりと、大きな被害を受けました。

災害復旧作業により直販ができず、収入が大きく落ち込みましたが、収入保険のつなぎ融資を活用し、経営を継続することができました。もしもに備え収入保険に加入していて、本当によかったです。

（農業共済新聞2023年3月15日より要約）

「収入保険は、自分でどうにもできないときの備え」

【京都府和束町 西山 生光さん】



2019年4月上旬に、収穫直前の一番茶に大きな霜の被害を受けたことから収入保険への加入を決めました。

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で茶の価格が大きく下がり、収入も例年の半分まで減少しましたが、保険金を受け取ることができたので助かりました。ここまで経営に影響があると思っていなかったのが加入していてよかったです。

今年の収入がだめでも、来年に向けての準備を整えることができる収入保険は、万が一に備えられて安心です。

（NOSAI京都広報紙「京彩」2025年新年号より要約）